

平成 27 年度第 4 回泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 議事録

[事務局 石橋]

定刻となりましたので、只今から泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議、第 4 回会議をはじめさせていただきます。

本日は皆様お忙しい中、本会議にご出席を賜り、誠に有難うございます。本日もどうぞよろしくお願い致します。

本日は、委員 20 名のうち、16 名の方が出席されておりますので、会議は成立していますことをまずはご報告させていただきます。

なお、阿部委員、徳田委員及び岡本委員につきましては、所用のため出席できない旨、事前にご連絡頂いており、本日欠席されております。

また、栗本委員につきましては、少し遅参されるとのご連絡を頂いておりますことを、併せてご報告いたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

まず 1 枚目に次第がございます。

次に、資料 1 としまして、本日机に配付させていただきました泉佐野市まち・ひと・しごと創生市民アンケート調査結果報告書。

資料 2 としまして、泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）。

資料 3 としまして、第 3 回戦略会議議事録となっております。

その他、本日配付させて頂いております資料としまして、A 4 裏表の正誤表、続いて座席表となっております。

資料は以上となっておりますが、不足等ございませんか。

それでは、この後の議事進行は、吉村会長にお願いしたいと思います。

吉村会長よろしく申し上げます。

(吉村会長)

第 4 回泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を開催致します。

前回は、市民アンケート調査の速報値の報告を受けた後、総合戦略の素案段階に対してご意見をいただきました。

本日の案件は、お手元の議事次第のとおり 3 件となっております。

特に、2 点目のまち・ひと・しごと創生総合戦略は、前回の素案から案のレベルになっておりますが、前回同様さまざまな方面からのご意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

案件の 1 に入る前に、先に前回の会議で、人口ビジョンについて、ご質問等を頂戴した件について、事務局の方からご報告をお願いします

[事務局 松下]

それでは、前回の第 3 回総合戦略会議にてご審議いただきました泉佐野市人口ビジョン（案）のところで、委員の皆様から様々なご意見やご質問をいただきましたが、そのうちの 2 つのご質問については、

お調べをして、次回の戦略会議にてわかる範囲でご報告する旨を回答させていただきましたので、そのご報告をさせていただきます。

まず、1つ目のご質問は、平均初婚年齢の推移のところ、夫、妻ともに年々高くなっているのですが、その中でも平成14年に夫・妻とも初婚年齢が急激に上昇し、また、平成21年にも夫の初婚年齢が急に上昇し、翌年には前々年の数値程度に下がったということに対して、これらの要因についてのご質問でした。早速市民課の方で何らかのデータがあるのではないかと問い合わせたところ、これまで提出された婚姻届に関する資料の保存期間が5年間であり不存在であることや、もし存在していたとしても結婚年齢や初婚か再婚かはわかりますが、平均年齢が高いという要因まではわかりません。また、婚姻届出件数についても何らかの関係があるかも知れないということで調べたのですが、要因となるようなことは確認できませんでした。

次に、2つ目のご質問は、自然動態・社会動態の推移のところ、平成16年度～平成19年度において、社会増減数の変動が激しい結果に対して、これらの要因はどんなことが考えられるのかというご質問でした。これについても、住民の移動は、どこへ転出されたのか、あるいはどこから転入されたのかは一定わかりますが、その理由までは窓口の手続きだけではわかりません。また、例えば、転出入先のデータで鹿児島県の霧島市や東京都大田区が多いのは、空港関係の方の移動があったかもしれないという推測ができるような特徴的なことがないかも調べたのですが、あるところからの転出や転入が特段多いなど、推測できるような特徴的なことも確認できませんでした。

以上、ご報告させていただきます。

(吉村会長)

ありがとうございました。過去のデータの原因はなかなか把握できないとのことですが、今の説明に対して、何かご意見、ご質問等はございませんか。

それでは、案件に入らせていただきます。1点目の市民アンケート等調査結果について、事務局のほうからの説明をお願いします。

[事務局 松下]

それでは、(1)市民アンケート等調査結果について、ご説明させていただきます。【資料1】をご覧ください。前回の会議でアンケート結果の速報値等について、ご説明致しましたが、今回は、必要に応じて、年代別や男女別、地域別といったクロス集計も加えておりますので、それらを中心に主な分析結果についてご報告申し上げます。

最初から飛びますが、7ページをお開き願います。全体を通してですが、今回は棒グラフや円グラフ等で表現しているほか、答えの多い順に並び替えるなど、見やすい形にしております。

市民アンケート調査の間11『泉佐野市が住みやすいと感じる点はどういった点ですか。』という設問ですが、「買い物をする店の多さ、近さ」と、「交通の便がよい」がほぼ同じで1番多くなっております。これを市内の居住地区ごとにクロス集計した内容を中段以下に記載しております。具体的には、次の8ページにクロス集計結果を示しておりますが、中ほどの「買い物をする店の多さ、近さ」については、三中、佐野中、新池中学校区が多く、逆に日根野中学校区は少なく、他地区の半分程度となっております。このことから、日根野中学校区の方は「買い物をする店が多い、近い」といった住みやすさをあまり感じていないと推察されます。また、上から2段目の「交通の便がよい」については、長南中学校区が最も少ない結果となっております。そのほか、第3位の「自然環境が豊か」については、日根野、

長南中学校区が多く、買い物をする店の多さ、近さと逆相関の関係が見られます。

次に9ページになります。問12の『泉佐野市が住みにくいと感じる点はどういった点ですか。』という、問11とは逆の質問ですが、問12で最も回答が多かった「医療・福祉サービスが充実していない」については、10ページのクロス集計では、新池中、三中、佐野中学校区が多い結果となっています。また、「買い物をする店が少ない・遠い」については、日根野中学校区がダントツで多い結果となっております。そのほか、居住地区間で差が顕著なのは、「交通の便が悪い」及び「通勤通学がしにくい」で長南と日根野地区が多くなっております。

この問12の設問の回答のうち、回答数の多い「医療・福祉サービスが充実していない」、及び「教育・保育サービスが充実していない」について、具体的なサービスの内容を記入してください、という設問が、11ページにございますのでご覧ください。この自由意見欄には、数百の記入がございましたので、主な回答として抜粋して記載致しました。充実していない教育・保育サービスについては、①義務教育の間は医療費を無料にしてほしい。②大阪南部は北部に比べ教育（学力）が低い。③学童保育を6年生まで引き上げてほしい。といったもの。また、充実していない医療・福祉サービスでは、②夜間、休日診療をしてもらえるところが少ない。といった意見がございました。

次に13ページをお願いします。問14の『あなたが、住む場所を決めたり、住宅を購入したりする際に、きっかけになり得る行政サービスは何ですか。』という設問ですが、医療費助成制度や子育て世代への補助金などの経済的支援が多くなっておりますが、保育所、学童保育の充実や学力向上のための教育の充実といった取組みにも注目していることがわかります。

次に17ページをお願いします。問18の『就労機会の向上等に向けて、泉佐野市が重点的に取り組むべきと感じるものはどれですか。』という設問に対して、求人・求職のマッチング、就労に関する相談窓口、企業情報などの情報発信の順に多くなっております。

次の18ページ以降の間19から問29までは、50歳未満の結婚に関する設問となっておりますが、そのうち、19ページの間19-2『結婚していない理由は何ですか。』の設問で、前回にもご覧いただいたように、「出会う機会、きっかけがない」が2番目に高い結果になっております。

また、20ページの間20『泉佐野市が重点的に取り組むべき結婚支援事業は何だと思えますか。』という設問に対して、「安定した雇用の支援」、「若い夫婦への住まいの支援」が高くなっております。

次に21ページをお願いします。問22.『「ご夫婦の方(事実婚含む)」におうかがいします。結婚を機に働き方はどうなりましたか。』という設問に対して、結婚前の仕事を続けた人は49.3%となっておりますが、これを男女別のクロス集計でみますと、次のページのグラフのとおり、結婚前の仕事を続けた女性は29.0%で、大きく男性を下回っております。

次に23ページの出産・育児に関する設問をご覧ください。問24で理想的な子どもの数は、2人から3人が多くなってますが、実際には問23で1人から2人ということで、概ね1人の差がございました。

次の24ページの間25『理想的な子どもの数を実現するために、課題となること（なりそうなこと）は何ですか。』との設問に対して、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」がダントツに多くなっております。

下の問26『「理想とする子どもの数より実際の子どもの数が少ない方」にお聞きします。理想の子ども数と差があるのはどうしてですか。』の設問でも同様に、経済的負担が要因の大きなものであることがわかります。

次に、27ページをお願いします。問31『今後、人口減少が進んでいくと、あなたにとって最も困ることは何だとお考えでしょうか』という自由記入欄では、ここも多くの意見記入がございまして、抜粋

して主な回答を記載致しました。①介護サービスの従事者が減少し、十分な介護サービスを受けられない。②近所が高齢者ばかりで、災害が生じた時にどれだけ力になれるか心配。③いつか車が運転できなくなり、買物難民になるのではと不安。といった高齢化の弊害に関するものが多く見受けられました。

次に、事業所アンケート調査についてでございますが、少し飛んで41ページをお開きください。問9『貴事業所の有給休暇取得率は次のうちどれにあてはまりますか。』の設問で、0%から100%まで円グラフではあまり特徴的なものはございませんが、これの従業員規模別のクロス集計を見てみますと、次のページになります。従業員10人未満、斜線の棒グラフですが、0%が極端に多く、従業員規模が大きくなるにしたがって、100%に近づいていく傾向となっております。

次に、43ページの間10の育児休業の取得率ですが、男性が低いのはわかりますが、下の女性の方も取得率10%未満が6割もございます。

この結果も反映した設問として、45ページの間12『結婚、妊娠、出産後も継続して女性が働くためにどのようなことが必要だと思いますか。』という設問をご覧ください。「育児休業を取得しやすく、職場復帰しやすい環境の整備」や「育児に関する制度の利用について、社員全員の意識の浸透が重要」が多くなっておりまして、実態とのかい離が大きい課題となっていることがうかがえます。

次に少し飛びまして、54ページをお願いします。問23.『泉佐野市で事業を続ける中で、泉佐野市で足りていないと思う点は何ですか。』という設問ですが、「まちの将来が不安」が1番多く、「市の支援策が不十分」が続いています。「まちの将来が不安」という内容は、この設問では具体的にわかりませんが、考えられるものとして、財政健全化団体であったことや、りんくうタウンなどまちの賑わいが思ったほどでないなど、市が今後、活性化していけるかを懸念しているものと考えられます。

次に55ページの間25『泉佐野市で就労機会の向上等に向けて、次の行政サービスのうち、必要だと考えるものはどれですか。』という設問でございますが、「就労に関する相談窓口」、「就労のマッチング」、「起業支援」の順に多くなっております。

次にアンケート回答者が少なく参考にはかぎりませんが、転入者アンケートで気付いた点を申し上げます。70ページをお願いします。問14『住まいを探したときに、泉佐野市の行政サービスや制度について調べましたか。』の設問に対して、9割が「調べなかった」としておりまして、自治体間の行政サービスに違いがあることを認識していない方が多いのではないかと考えられます。

最後に、1番回答率の高かった中学生アンケートについてですが、泉佐野市の将来について尋ねた設問が78ページにございますので、ご覧ください。問10『最後に、2060年までに泉佐野市が「こうなしてほしい」、「こうしてほしい」、「こうしたらいいのに」ということがありましたら、1つだけ記入してください。』という設問ですが、ここも多くの意見がございまして、抜粋して記載致しました。①2060年にはゲートタワービルの2棟目が見たいな。とか②泉州の中心地になって欲しい。といった市の発展を望む意見のほか、③借金がなくなって、公共施設の利用料が安くなって欲しい。といった市の財政状況をよく知っている意見がございました。

ちなみに、市が借金が多いということは、社会の授業で「第2の夕張市」と習ったようでして、借金をなくしてほしいといった意見が多く記載されておりまして、我々としても胸が痛くなるご意見でございます。

抜粋した説明となりましたが、以上のとおりです。

(吉村会長)

ありがとうございました。前回の速報値から、今回は、年代別などクロス分析も入れた詳細の調査結

果が示されております。

今の説明に対して、何かご意見、ご質問等はありませんか。

特にないようでしたら、先に総合戦略の案をご説明いただいて、そのあとに資料 1 もあわせてご質問いただければと思います。では、(2) の泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、事務局のほうから説明をお願いします。

[事務局 松下]

それでは、資料 2 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略案をご覧ください。

前回の会議でご指摘いただいた点や、今回、大きく修正した点、新たに掲げた項目などを中心に、ご説明申し上げます。

3 ページをお開きください。基本目標①安定した雇用を創出するの上から 2 行目の即ちから 4 行目にかけて、文言を追記しております。「即ち、空港関連、りんくうタウン等の企業によって一定の雇用の場の提供はあるものの、内陸部も含めた市全体でのさらなる安定した雇用を確保することにより、人口の社会増を支える必要があります。」ということで、安定した雇用創出の必要性の説明を加えました。

また、下の数値目標としまして、次のページ以降も同様ですが、具体的な数値を精査した上で掲げております。ここでは、市内在住就業者数と市内事業所就業者数の目標数値を示すこととしております。

次に、(1)基本的方向でございますが、今回は、産業の創出としていたものを、しごとの創生としまして、企業誘致や中小企業振興の文言を追記致しました。

また、下の農業等の振興も併せて、少し文言の入れ替え、ご指摘のあった農協祭を農業祭に修正するなどしております。

その下の人材還流・人材育成では、4 行目のまた以下の文言を追記致しました。全国移住ナビや大阪府の地域しごと支援センターと連携しながら、UIJ ターン就職希望者を対象に「しごと」や「暮らし」情報を提供していくものでございます。なお、UIJ ターンの言葉の意味を 1 番下から次のページにかけて注釈を付記しております。そのほか、次ページ以降についても、インバウンドやアフターコンベンションなどの横文字を中心に注釈文を付けることと致しております。

次に、4 ページで、(2)具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI）でございますが、①地域資源を生かした産業振興と創業支援ということで、前回ご指摘のあった創業支援を盛り込んでおります。この施策の主な事業としまして、中小企業総合支援事業、インバウンド観光消費喚起事業、泉佐野産（もん）普及促進事業、就労支援カレッジ事業などを掲げております。

なお、事業名だけでは、内容がわかりにくいいため、それぞれの事業の簡単な説明をカッコ書きで示すことと致しました。また、基本目標の数値目標と同様、それぞれの施策の重要業績評価指標 KPI を明記致しました。

次に、5 ページの③の地域産業の競争力強化でございますが、前回から追加した項目でございます。成長分野及び新ビジネスにおける創業者への支援、観光振興策を行うものとしております。

次に、④女性に対する就職相談等では、主な事業として、地域就労支援事業、女性起業家創業支援事業、地域雇用創造バンク事業をお示し致しました。

次に、6 ページの⑥人材育成・雇用機会の拡充でございますが、前回の人材育成から、雇用機会の拡充の文言を追記し、また、下の表の KPI を 6 項目に増やしております。

次に、7 ページの基本目標②でございますが、前回ご指摘いただいた定住魅力の強化という文言を、基本目標に格上げして、定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくと致しました。

また、同じくご指摘のあった数値目標では、転出者数、転入者数ではなく、転入超過数を目標値としております。

次に、(1)基本的方向でございますが、1番下の外国人にやさしいまちづくりの項目を追加しております。前回の人口ビジョンでも、最近の外国人人口の急増や、観光客数を踏まえて、施策項目として掲げることと致しました。

次に、8ページの(2)具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI）でございますが、下の③インバウンド観光による交流人口の拡充のところで、9ページにかけて主な事業を整理して掲げた上で、表のKPIを6項目お示し致しました。

それから、9ページ下で、④国際医療交流の拠点づくりの推進を追加しております。現在、りんくうタウン地域は、医療資源を活かした地域活性化総合特区に指定されておりますが、今年度末で指定期間は終了することになります。

しかしながら、これまでの取組みは、引き続き実施していこうと考えておりますので、次のページにかけて主な事業を記載し、また、KPIに掲げている医療通訳育成数や特区案内士登録者数の目標設定をしたものでございます。

次に、11ページの基本目標③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるについてでございますが、数値目標の出生数及び合計特殊出生率につきましては、人口ビジョンの将来展望に示した数値のうち、5年間、5年後の数値を記載しております。

(1)基本的方向でございますが、2つ目の施策の地域医療の充実におきまして、前回、公的医療だけでなく民間医療についても記載すべきとのご指摘がございましたので、「地域の医療機関と連携して」という文言を追記致しました。

また、1番下の生涯学習の推進の項目を追加しまして、学校教育以外についても、国際文化交流やスポーツ推進などの施策に取り組むものとしております。

次に、12ページの(2)具体的な施策及び重要業績評価指標（KPI）でございますが、②妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援について、主な事業の整理をしております。

13ページになりますが、前回の会議後、納田委員からいくつかご提案いただきまして、その中から上の地区福祉委員会活動の支援を加えることと致しまして、KPIにも子育てサロンに関する数値を設定致しました。

次の③安心・安全な出産・子育て支援の充実でございますが、主な事業の整理をしております。また、市民アンケートでも関心の高いことがわかった保育所・学童保育の充実などについて、主な事業として掲げることと致しました。

恐れ入りますが、本日お配りした正誤表をご覧ください。

担当課の方で追記修正する期間が短かったため、資料送付までに間に合わなかったことから、正誤表での対応とさせていただいたこととお詫び申し上げます。項目としましては、幼児教育・幼児保育、地域における子育て支援サービス、放課後児童対策事業を追加したものでございます。なお、裏面の正誤は、不要な文字が入っていた単純ミス の訂正でございます。

それから、13ページ1番下のKPIでは、市民アンケートでも要望が高かったこども医療費助成対象者数、具体的には現在の小学4年生までを中学卒業までの年齢に拡充した場合の人数を目標設定しております。

次に、⑤国際交流の推進でございますが、今回、追加した項目でございます。主な事業としまして、青少年海外研修事業や文化交流・マラソン交流などを掲げております。

次に、15 ページ下の⑦出会いの支援でございますが、今回、市民アンケート結果や、前回でのご意見も踏まえて、追加することとした施策でございます。詳細は今後検討致しますが、市が直接実施するというよりも、婚活イベント等の共催や後援を行い、広く情報提供等の支援を行うことを考えております。

次に、17 ページの基本目標④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携するでございますが、数値目標としまして、健康寿命の延伸がここでの代表的な指標になるものとして設定致しました。

次に、(2)具体的な施策及び重要業績評価指標 (KPI) のうち、次の 18 ページになりますが、②時代に合った行政サービスの実現としまして、公共施設等の複合化・長寿命化や職員の適正配置・効率化などの内容を追記しております。

次に、20 ページ下の⑦地域づくりでございますが、地域防犯力の充実強化やコミュニティ活動の活性化、地域連携強化などに加えて、地域特性を加味した地域マネジメント組織、日本型 DMO の構築の推進を盛り込んだものとしております。具体的には、主な事業では、地域資源ブランディング化推進事業、先にも出ておりますインバウンド観光消費喚起事業などを通して、地域全体をマネジメントしていくものでございます。

新たな項目や、主な修正点についての説明は以上です。

最後に、総合戦略の全体的な話になりますが、体系的に見てみますと、4つの基本目標が大項目で、それぞれの(1)基本的方向に掲げられている項目が中項目、具体的な施策に記載している①、②といった項目が小項目となり、そして、主な事業に掲げられている事業が小項目の中の細分類項目ということになります。

何を申し上げたいかと言いますと、こうした細分類項目の事業については、計画期間の5年間変わらない事業もございますが、国府の臨時的な補助事業など財源の関係で内容が変わるものや、あるいは補助事業そのものがなくなる可能性もございます。

もちろん、今後、計画期間の5年の間には、施策の方向性や趣旨は変わらずとも、具体的な事業においては、その時点時点に応じた事業の形に変更していく必要もございます。そういった点も踏まえまして、それぞれの主な事業の後ろに「など」という文言を付記しまして、柔軟に対応していくものとしております。

従いまして、現時点では網羅的に掲載しているとは考えておりますが、年度ごとの国府の予算編成や国府の制度改正等によって、財源的にも左右されるものがございますので、主な事業に掲げているものについては変更することがあり得るということで、ご理解のほどをよろしくお願い致します。

説明は以上です。

(吉村会長)

ありがとうございました。

前回、ご意見等をいただいた部分も含めて、修正、あるいは新たに加えられた項目がございますが、今の説明に対して、何かご意見、ご質問等はございませんか。

では戦略案の順を追って、まず、「基本目標① 安定した雇用を創出する」の部分について、ご意見ご質問等はございませんか。

(石川委員)

5 ページの「④女性に対する就職相談等」について、あえて「女性に」としている目的を教えていた

だけないでしょうか。

[事務局 道下]

アンケートでもありましたように、女性の方が結婚を機に仕事を辞められる比率が非常に高い、また、出産や子育てが終わったあとの再就職の問題など、女性の労働力がなかなか活かされていないのではないか、ということで設定させていただきました。

(石川委員)

事務局のお考えは、自分もそのとおりだと思いますが、皆さんはどう考えてらっしゃるのかと思って質問した次第です。

(内堀委員)

重要だと思う。シングルマザーの方もいらっしゃると思うので。

(中村委員)

女性に対してということは、男性に対してということと同じだと思います。女性だけでなく、男性も大事。まわりの理解力も高めて、女性も男性も一緒にやっていく必要がある。

(吉村会長)

では、この部分は基本的にこの形ということでよろしいですね。  
ほかに何かございませんか。

(大伍委員)

‘農業等’とされていますが、農業等とはどういうことなんでしょうか？説明文には農林漁業とありますが。

[事務局 道下]

基本的に1次産業という意味合いです。ただ、泉佐野の林業は、あるにはあるんですが、農業や水産業と同程度に活性化するのもなかなか難しいという実態もあってこのような表現とさせていただいているところです。いま席を空けてますが、担当理事が出席したら説明させたいと思います。

(織田委員)

求人倍率、大阪府では一昨年の11月から1倍を超えており、現在、1.2倍となっています。我々が担当している泉佐野を含む泉州地域は少し低くて、0.7~0.8倍となっています。求人倍率というのは、就業地ベースで、域外の就業、例えば大阪市の企業から泉佐野市を就業地として求人が出された場合は、泉佐野ではなくその管轄のハローワークの求人倍率としてカウントされます。泉佐野ハローワーク管内ではこのような求人が3割くらいあるので、実態としてはほぼ1倍くらいになるのかと思います。

戦略の素案では、就業者数を向上させる目標値が書かれていますが、今の状況は完全雇用に近い状況と言えますので、したがって、今仕事を求めている人は、仕事に就けるという状況ですので、少子高齢化が進んでいく中で、これだけ増やすというのは、実態として、5年後に労働力人口がそういう状況に



なり得るのか把握しておく必要があると思います。

地方の一都市であれば、市内で求人も就職もほぼ完結しますが、泉佐野の場合は、市内で完結するような地域ではなく、少し電車に乗れば大阪へ出られます。さきほど申しましたように大阪府の求人倍率は1.2倍ですので、100人の就職希望者に120の求人がある状況です。ですので、泉佐野市内で働く労働人口を確保しなければならないと思いますので、少し厳しい目標なのかなというのが正直な感想です。

ハローワークの現状としては、求職者数が減ってきている状況です。求人はあるのですが、2年くらい前であれば、求人すれば応募者の反応があったものが今はすぐには見つからないというような事業者の声も出てきておりまして、景気にも左右されますが、働く方も高齢化していきまして、泉佐野市に住んでおられる方で就職者数を確保するとなってくるとかなり厳しいんじゃないかなと思います。

#### [事務局 道下]

おっしゃることはよく分かります。事務局としても、まちの活性化担当からこの数値が出てきたときに、かなり目標が高いなと、それだけ担当課はやる気なんだなという印象を持ちました。

さきほど申し上げましたとおり、女性の対策を講じるとか、高齢者の方でも年金受給年齢が62歳、63歳とだんだん上がっていく中で、そういった方たちの活用も市としては考えていけない部分がありますので、その辺りの底上げした部分を加味してこの目標を設定してきたと事務局としては解釈しております。

この戦略は進捗状況を確認しながら進めていく必要がありますので、その過程でひょっとしたら厳しい目標だったということになるかもしれませんが、事務局としては、いまの段階でこの目標を否定するところまでの根拠も持ち合わせていないこともありますし、市がこの目標に向かって進めていきたいということであれば、事務局としてもそれを挙げさせていただいたらどうかと考えているところです。

#### (吉村会長)

現状の実態から比べると難しい目標設定という印象になるのかもしれませんが、少し表現を工夫するとか、需給バランスをとっていくようなものとか、マッチングに注力するとかがより見えるようにしていくのがいいのかもしれないですね。

他にありませんか。

では、基本目標2について、ご意見ご質問をいただきたいとおもいます。それ以外の部分でも結構です。いかがでしょうか。

#### (西座委員)

基本目標2は「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」ということですが、現在、この分野について、市はどのような施策をとっておられるのでしょうか。

#### [事務局 道下]

8ページに書かれている主な事業でも既に実施しているものがございます。新たに実施する事業も書かれていますが、住宅総合助成事業や空き家バンクは今年度から始めておりまして、登録者数は始めたばかりなのでまだ少なく、データもまだまとまっていないような状況です。

インバウンド観光による交流人口の拡充については、今後やっていくものについては確かなことは言えませんが、まち処運営事業は2ヶ所で実施しています。そこにプラスして、例えば観光周遊バス運行

事業は、国の新たな交付金の追加交付分に位置付けられておまして、これに手を挙げていこうという事業が、観光周遊バス運行事業、地方版 MICE 誘致推進事業、泉佐野産（もん）普及促進事業などがいま手を挙げている事業です。

また、具体的に今実施している事業は、「④国際医療交流の拠点づくりの推進」ということで示させていただいているもので、大阪府さんも一緒にやっています。来年にはロート製薬の関係のビルができるということが決まっております。

（西座委員）

効果がありそうなものがない感じがします。現在行われていることでも、空き家バンクで最近何をされたのかということが、これを見る限りでは分からないと思います。

目標として挙げられるのであれば、何か大きなものがあつた方がいいんじゃないかと思います。

〔事務局 道下〕

この項目は、「新しい人の流れをつくる」ということですので、「新しい」が付いているということがひとつございます。アンケートでもいろいろご意見をいただいた中で、泉佐野の人口減少をくい止めるということに対しては、500～600 の回答していただいた中で見ますと、基本的には、市民サービスを充実していくというのが求められていると考えています。ですので、この基本目標 2 は、新たな取り組みという視点で掲げているため、実績としては積みあがっていないという点をご理解いただけたらと思います。

（吉村会長）

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

（久保委員）

14 ページ。アンケートでは行政サービスへの充実を求められているとのことですが、生活環境の何が問題になっているとお考えでしょうか。

〔事務局 道下〕

アンケートについては、ハードに対する意見が多くて、例えば下水道の普及率が低いであるとか、確かに大阪府内では下から 2 番目とかなんです。

それから、教育環境について多かつた意見は、学校にプールが無いというものでした。これは、泉州方面の海沿いのまちにはプールが無いところが多くて、大阪府北部の海が無いところはプールが整備されているという府下の特徴があります。歴史的な施策の流れでそのようになっているようです。いずれにしても、ハードの整備という面ではまだ劣っている面があると言えますし、それが、生活環境が良くないというところに現れているのかと思います。

市のサービスに不満があるという意見については、大きな医療機関が少ないというものが多くて、全体として見れば大阪中心部ほど大きな医療機関があつて、周辺部は少なくなる傾向にあります。市内に開業医はたくさんありますが、確かに大きな医療機関はりんくう総合医療センターがあるんですが、小児救急でなかなか対応しきれない面があるようで、市外へ運ばれたことがあつたというアンケートの意見もあつて、システム的には脆弱な部分があると言わざるを得ないかもしれません。

主な意見を抜粋して紹介させていただくと、以上のようなことになります。

(久保委員)

例えば放射線治療とかは対応できない状況ですが、これは市の意向だけでどうにかなる問題でもありません。今後もハードに関しては、国に粘り強く働き続ける必要もあろうかと思えます。

(石川委員)

9 ページの KPI 目標について、目標値を決定した際の根拠などがあれば教えていただけないでしょうか。

[事務局 道下]

担当課から積算の根拠が提出されています。担当課の方から説明してもらえますでしょうか。

[担当課]

はい、では説明させていただきます。

インバウンド観光客数については、宿泊者数が現状 67 万人から 80 万人、アウトレット来客者数が現状 40 万人から 100 万人、まち処利用者数が 9 万人から 18 万人、その他商業施設等の新設を見込んで現状ゼロから 50 万人、これらを加味して積み上げた数値となっております。インバウンド観光客数は現状の合計で 110 万人となっております、増加見込み分の合計が KPI として設定した 300 万人となります。

また、外国人延べ宿泊者数については、現在 67 万人の実績ですが、ホテルの誘致活動等もやっております、今後、ベッド数の増加等も含めて、80 万人の達成は見込めるのではないかと考えております。

手ぶら観光利用者数については、現在まち処で取り扱っている手荷物預かりサービスというものが 1 日に 40 件ございまして、これから実施していくサービスとしまして、宿泊施設や空港までの配送等による期待値として 1 割増しを加味して想定し、KPI として 16,200 人と想定しています。

関空のまち処について、来年の秋に第 3 ターミナルへ移転する予定でございますので、平成 26 年の利用者数が約 5 万人ですが、更に利用者数が増加するものと期待できると思われまますので、KPI を 20 万人としています。

地方版 MICE 誘致件数については、現在 IR 誘致を進めておりますので、その延長線上で MICE の誘致に取り組む必要もあることから、今年の秋に予定しております大規模な会議におきまして MICE 誘致に向けた課題を抽出し、その課題の解決に向けた取り組みを行うということで、地方版 MICE 誘致の期待値として 2 件と設定いたしました。

地域内における経済波及効果額については、ちょっと数式がややこしいのですが、190 万人、これはインバウンド観光の増加数でございます、かける 3,000 円、この 3,000 円は食事と交通費等の消費額、プラス、13 万人、これは外国人延べ宿泊者数かける 8,000 円、これは宿泊料金でございます、プラス 10 億円、これはインバウンドに関する各施策展開における消費誘発額、これにより算出しまして、KPI80 億円以上ということでございます。

(栗本委員)

初歩的な質問で申し訳ありませんが、観光客数の‘観光客’というのはどういう定義なんでしょうか。

(吉村会長)

担当課さんからお答えいただけますでしょうか。

[担当課]

はい。観光客にも種類がございます。一般的に我々がイメージするのは、物見遊山であるとかのいわゆる観光客でございますが、ここでいう観光客数には、ビジネスで来られる方、例えば MICE とかの会議に来られる方なども含めたものになります。

(吉村会長)

では、基本目標 3 の方へ進めさせていただきたいと思います。ご意見ご質問等はございませんでしょうか。

(石川委員)

15 ページの国際交流のところの KPI は現状維持ということかと理解しますが、さきほどご説明いただいたインバウンドの 300 万とか 80 万とかの目標数値と比較した際、国際交流という事業で 2 人とか 3 人とかの規模で交流を続けて、今どき何の意味があるのかと思うんです。これが昭和 30 年代であればこれでいいと思います。町の、村の優秀な子を海外へ派遣して交流しましょうという時代だったと思いますが、何百万という人をこの町で受け入れようとしている時代にこの規模のものを一生懸命やろうと言う KPI を定めるというのは、私は違和感があると思うのですがいかがでしょうか。

[事務局 道下]

これは個別の事業のことを書いておまして、例えば青少年海外研修派遣事業も子供の数なんです。この事業についても市の財政難で一旦縮小ということになったんですが、継続して進めていこうということで担当現課の方で 50 人という KPI を示してきたもので、こういった事業は従前と同様、廃止せず続けていきたいと思いますということで、ちょっとレベルは低いんですけども。また、モンゴル国友好交流参加者数にしましても、教育サイドで実施している事業を継続していくという主旨で書いておまして、確かに、おっしゃるようなもっと大きな人数を書けということはあるのかと思いますけれども、これは単にその事業の参加者を記載しているだけという解釈で、民間レベルでもっと広い指標があればいいんですが、また、民間レベルで広がるということも当然考えられるんですけども、今そのレベルまで担当課としては書きにくいということで、個別の事業で書いていると解釈していただければと思います。そういういい数値がなくてですね。

(石川委員)

これは個人的な意見ですけども、こういうものは、今どき役所でやるべきことじゃないんじゃないかという意味です。僅かな人数の事業をやり続けるということが、役所が率先してやるような時代ではなくて、もっと違う国際交流をやるべきではないのかなというのが個人的な意見です。あくまでも個人的な。

(吉村会長)

時代における効果を考えたときに、というご意見かと思えます。ここでどれだけ個別の事業の数値に

触れるかということはあるかと思いますが、貴重な意見として頂戴したということで。

(吉村会長)

ほかに基本目標 3 についてございませんか。では、基本目標 4 についてはいかがでしょうか。

(西座委員)

13 ページの地区福祉委員会活動の支援のところの KPI で、女性のための相談事業相談件数が、現状 455 件/年のところ、5 年後に 478 件/年となっていますが、子育てサロン実施箇所は現状 15 ヶ所で目標 15 ヶ所とほとんど変わりがない目標となっていますがどうなのでしょう。

また、アンケートで子どもの教育、学力向上についての意見が多かったとのことですが、よく分からないんですけども、学習レベルをどの辺のレベルで設定するのがいいのか、変に先生へのプレッシャーになってもいけないと思いますが、どの辺を目指したいのかというのも一つの指標になるんじゃないかと思います。学力レベルがここまで上がってきたよとかいうのも目標になるんじゃないでしょうか。

[事務局 道下]

13 ページについて、おっしゃるように目標値という意味ではレベルが低いんでしょうけれども、維持していくということも目標になり得ると考えております。少子化のため子供が減っていく中で、施設等も縮小せざるを得ない事態があり得るかもしれませんし、そういう意味でも維持すべきものは無くさないように維持していこうというのは目標としてご理解いただけたらと思います。確かに女性のための相談事業相談件数については、現場の方でも自信が無いのかも分かりませんが、中村さんいかがでしょうか。

(中村委員)

相談件数は年々増えております。それがいいことなのかどうなのかは議論の残ることかもしれませんが、事業立ち上げ当初と比べたらすごく増えています。認知度が高まったのかもかもしれませんし、相談される方は増えています。

[事務局 道下]

ありがとうございます。中村委員がおっしゃられたように件数は増えているんでしょうけれども、相談件数というものが増えればいいというものでもないのかもしれませんが、担当課ではこの程度でということ設定したものと思われま。

学力向上については、アンケートでは意見として一番多かったかもしれません。学力水準が低いといったネガティブな書き方も含めると。それから、北部と比べるとかなり差があるというような意見がものすごく多かった印象があります。市としても教育振興基本計画などで一定の数値はお示ししているところですが、教育長、ご紹介いただけますか。

[教育長]

先日、本年度の全国学力テストの結果が届きまして、新聞報道等でもご承知だと思うんですけども、大阪府は小学校中学校とも全国平均より良くなかったんですが、今年度は中学校を中心に府全体としてはかなり改善されてきました。本市は、これまで小学校は大阪府の平均とほぼ同じでしたが、ちょっと

今回は下がっていました。中学校は平均 2 ポイントぐらい大阪府の平均より正答率が悪いというのが実態です。

いま教育環境の充実ということで、エアコンを平成 25 年に全小中学校へ設置できましたし、耐震化は終わってます。それから、今年度から夏休みを 1 週間短縮して、授業を増やしたりとかいろいろ手立てをしております。もちろん、子どもたちも、教師の方も力を入れてくれているんですけども、なかなかまだ結果が出ていない状況です。教育振興基本計画の中で今後 5 年間の目標として、大阪府の平均はもちろんですけども、全国平均を目標にしっかり頑張っていきたいと思っております。

(西座委員)

女性のための相談件数ということは、こういうことをやっているよという啓発の意味もあるかと思えますので、自殺サポートなんかもそうだと思いますが、件数よりもやっているということアピールする方向とした方がいいのではと思いました。

学力については、せつくなので目標を目指して頑張っておられるのであれば、PR という意味からもそういった数値を戦略でも書かれたらいかがでしょうか。教育環境でエアコンを全校整備しているとかいうことも書かれた方がいいんじゃないかと思えます。

[事務局 道下]

ありがとうございます。なかなか数値設定できるようなものというのが無かったという面もありまして、どちらかというアウトカム指標を示すことになっていきますので、成果がわかるように書く必要があります。ところが、アウトプットとして数値の結果しかないものもございますので、もうちょっと女性相談担当課にも聞いてみますが、無い場合はこれで行かさせていただかないとしょうがないんですけども、他の数値等があるのか、修正可能かも含めて担当課に確認したいと思えます。

教育についても、11 ページに学校教育の充実というところがございますが、教育振興基本計画と同じ目標値を書いてもいいのかもしれませんが、また、教育の方と調整させていただきたいと思えます。

(西座委員)

相談件数は多ければいいということでもないと思うので、それは数値化しなくてもいいので、それよりも知っていただくための活動していることをどうしたかということも結果の検証になるんじゃないかということです。件数が出ているものも、件数が多いからといってどうということではなくて、その過程でどれだけ知ってもらえたかということが結果として大事なんじゃないかと思えます。

(吉村会長)

広報の改善であるとか、量よりもクオリティを求めるといいますか、そういった取り組みであるとかを何か上手く示すことができるような数値、正直これはなかなか難しいことではあるんですけども。

[事務局 道下]

何か相関関係がありそうな数値を示すということしかできないかもしれませんが。

(中村委員)

泉佐野女性センターでいろいろな活動をしていて評価も得られていると思えます。相談に関しては、

面接相談と電話相談を実施していきまして、女性の面接相談は3ヶ月待ちというような状況です。人気があるのいいのかわかりませんが、こういうことを数値化するのは難しいとは思いますが、事業としてどこかに書くところがあるのだとすれば、女性センターについても書いていただけたらと思います。

(吉村会長)

無理に数値化しなくてもいいというご意見かと思えます。こういったことをやり続けているとか、定性的な表現も可能かと思えます。教育の方についても、いろんな取り組みについて書ける部分は書いて、数値化しているものがあれば示していただくということでよろしいでしょうか。

ほか、全体を通してご意見等ございませんでしょうか。

(栗本委員)

18ページの広域連携のことについてですが、大阪府では平成の大合併がほとんど行われなかったということもあって、広域連携にいろいろ取り組まれてきていると思えますけれども、「近隣市町との事務連携、権限移譲」という項目が書かれています。ここに必要ないと思うんですけども、相手のあることなのでお答えにくい部分もあるかと思えますが、5年後に55事務という目標があるんですけど、今どんなことをやろうとしているのか、検討されているような広域連携事務というのはあるのでしょうか。

[事務局 道下]

細かい点で申し上げますと、例えばパスポートの事務、現在府がゲートタワービルで行っているパスポートの事務を市町村へ渡すということなんです。各市役所なり町役場なりで実施しなくてはならなくなるんですが、財源も限られている中で各自治体が実施するのも難しいかもしれないということもあって、大阪府が事務所をなくすのであれば、3市3町で協力して今のサービスを低下させないかということも考える必要があると考えております。他には、例えば、農林の担当理事はまだ来てないんですけども、農林水産関係の肥料の販売など、大阪府から権限移譲される許認可事務関係のもの。それから衛生関係でも権限移譲されるものがあって検討している最中なんですけれども、ただ、前回申し上げたかもしれませんが、共同してクラウドで電算関係でやった方が経費が安いんじゃないとか、今取り組んでいるのが住基システムとかいろんなシステムと一緒にできないかということで進めようとしているところですので、5年後に55事務という目標設定としておりますが、おっしゃれるように相手があることですので、できるものからやっていこうというスタンスで考えております。

担当が出席できなくなってしまったようで、「農林業等」についての答えがなかなかできないんですけども、林業が書いてないというご質問だったと思えますが、林業については、農業や水産業と違って本市では補助を出してないので、そういったこともここで書きづらい理由のひとつです。

(吉村会長)

他にありませんか。

総合戦略に書くのは難しいのかもしれませんが、状況の変化、例えば需給バランスの話もありましたし、教育の話もありましたが、そういう状況の変化を見据えているということと、ある種のPDCAを回した上で、考えていますよと言えるようなことに、数値を書かなくても匂わすような表現もしたらどうかというようなご意見もあるのかなと思います。

(納田委員)

全体を通して、いろんな分野にわたった視点で盛り込んでくださっているんですけども、案になって出てきたときにもう一回それぞれの取り組みになっているので、横断的であるとか関連性とか、こういう機会だからこそ、こことここがつながって、というような工夫が見えるような見せ方みたいなものがあった方が、総合戦略というものにはふさわしいんじゃないかと思います。

[事務局 道下]

今は言葉の羅列に近いような状態ですが、例えば概要図とか各関係を示したような図を作りたいと思います。体系図的な感じになるかと思います。

(吉村会長)

おっしゃる通り、全体としてひとつのストーリーとなるようなものが必要かもしれませんね。他にございませんか。

そうしましたら、本日頂いた貴重なご意見を盛り込ましていただいて、次回、最終的な総合戦略の成案としたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは議題のその他に移りたいと思いますが、皆さまの方から何かございませんでしょうか。

それでは、事務局の方から次回開催予定についてお願いします。

[事務局 石橋]

まずは、7月28日に開催しました第3回戦略会議の議事録について、資料3として事前送付させていただき、ご確認いただいていることかと思いますが、ご確認いただいた中で、修正等がございましたら、本日この後、もしくは9月4日(金曜日)までに事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。修正等を反映させていただいた議事録につきましては、本日の会議資料と併せまして、市の情報公開コーナー及びホームページにおいて公開させていただく予定をしておりますので、よろしくお願いします。

続きまして、今後のスケジュールにつきまして、簡単にご説明させていただきます。まず、本日ご審議賜りました総合戦略(案)につきまして、先ほど吉村会長からもございましたが、本日の皆さまからのご意見を踏まえさせていただきまして、本戦略会議として最終の(案)を策定いたします。その後、9月上旬から下旬にかけて、先の人ロビジョン(案)と総合戦略(案)のパブリックコメントを実施する予定をしております。また、これと並行しまして9月下旬に開催されます9月議会の議員協議会におきまして、人ロビジョン(案)と総合戦略(案)のご報告をさせて頂く予定をしております。

これらパブコメや議会でのご意見を踏まえさせていただいたうえで、10月に第5回戦略会議を開催させていただき、人ロビジョン、総合戦略ともに成案とする予定をしております。

また、本日ご報告させていただきました市民アンケート等調査結果につきましては、ページ数も多いことから、公表する際には、主たる項目を抜粋した形でまとめさせていただこうと考えておりますので、ご了承願います。

最後に、第5回戦略会議の日程でございますが、10月13日(火曜日)の午後6時30分から、この会場で開催する予定をしております。日程が近づきましたら、ご案内をお送りさせていただきますが、あらかじめご予約の程よろしくお願い致します。なお、資料につきましては、会議の1週間前には送付させていただく予定をしております。説明は以上です。



(吉村会長)

今後の段取り等についてご説明していただきましたが、何かご質問等ございますでしょうか。

それでは、これで第4回の泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議を終了させていただきます。  
ご協力ありがとうございました。

なお、本日いただいたご意見等は、議事要旨として事務局の方でとりまとめた上で、次回の会議までに各委員に送付させていただきますので、ご確認をお願いします。

どうもありがとうございました。

(丁)